

地域医療支援病院 市立砺波総合病院

おあしす連携だより

創刊号
2020年2月発行

vol.1

〒939-1395 富山県砺波市新富町1番61号 TEL0763-32-3320 <https://www.city.tonami.toyama.jp/tgh/>

創刊にあたって



市立砺波総合病院 院長 河合 博志

令和の新時代の幕が開いて9か月余り、皆さまには令和初めての新春を健やかに迎えの事とお慶び申し上げます。

皆さまにおかれましては平素より病診連携、病病連携を通じて市立砺波総合病院事業にご協力いただき誠にありがとうございます。

昨年9月に皆さまとの連携を深める目的で新たにリーフレット「地域医療連携の手引き」を作成し皆さまに配付させていただいたところであります。今回、連携いただく先生方を対象とした「おあしす連携だより」を作成いたしました。この「おあしす連携だより」は、リーフレット「地域医療連携の手引き」を補完し、タイムリーな話題を定期的にアップデートすることを第一の目的としております。診療科からのご案内、各種研修会のご案内などを含めてお知らせいたします。今後もさらに皆さまとの連携を深めることにより、持続可能で質の高い医療の提供を目指してまいります。

担当の地域医療部の者がお伺いした折などに遠慮なくご意見をいただければ幸いです。

これまでの医療界の改革は地域包括ケアと医療安全の推進を一丁目一番地として進んできましたが、令和の時代の医療改革の一丁目一番地は地域医療構想の実現、医師の働き方改革の実行とされています。昨年9月には厚生労働省より全国の公的病院公立病院のうち424病院が再編必要として公表された衝撃が記憶に新しいところです。医師の偏在対策を含めて、医療大変革の時代とされています。今後も皆さまとの連携を基礎に変革の時代を乗り切っていきたいと考えております。引き続き、ご協力、ご指導を賜りますようお願いいたします。



消化器内科のご紹介

消化器内科 部長 稲邑 克久



関係各位のみなさま平素より大変お世話になっております。

今回は市立砺波総合病院消化器内科について紹介させていただきます。

ご高配のほどよろしくお願いたします。

現在消化器内科は河合博志院長の指導のもと稲邑克久 (H8 卒) 岡村利之 (H10 卒) 高田佳子 (H13 卒) 早川希 (H26 卒) の4名で構成されています。



左から順に、早川医師、岡村医師、高田医師、稲邑医師

診療範囲は肝疾患診療連携拠点病院としても活動しているウイルス性肝炎の最新医療から、肝硬変肝癌診療や食道静脈瘤を始めとして食道から大腸までの内視鏡治療、胆膵の領域では総胆管結石治療や膵のう胞ドレナージさらには緊急内視鏡止血術まで幅広くカバーしています。本年からはカプセル内視鏡や小腸内視鏡 (ショートシングル) が導入され、これまでは手が出なかった十二指腸水平部トライツ靭帯を超えた部位にある憩室出血を内視鏡的に止血できたことなど診療レベルを上げてきています。またすでに標準治療となった早期胃癌だけではなく、食道癌や大腸病変の粘膜下層剥離術 (ESD) や膵癌診断に必要な超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診 (EUSFNA) などの件数も増加傾向にあります。また入院患者は消化器内科グループにおいて毎年 1000 例弱のサマリを記載していますが、専門領域の疾患のみでなく内科一般診療もさらに幅広く対応しています。その上で、全国学会や地方会において演題発表も継続的に行っています。当科としては高度先進施設に及ばずとも劣らない地域で完結できる医療を目指し頑張っていきたいと考えております。

みなさまのご支援をいただけますと幸いです。今後ともよろしくお願いたします。

ロボット支援下手術の「これまで」と「これから」



外科 部長 吉田 貢一

手術支援ロボット「ダヴィンチ」は米軍の医療技術の民間転用により 1999 年に誕生しました。3 本の多関節アームと 1 本のカメラ用アームを用いて、医師が遠隔操作で手術を行います。誕生当初の日本では自費診療であり、国内の稼働は 3 台程度でした。しかし、2012 年 4 月から前立腺癌に初めて保険収載され、2016 年 4 月から腎癌も収載されると、その有用性と安全性が一般に認知され、爆発的な普及に至りました。現在では国内で約 350 台が稼働しています。

ダヴィンチの魅力は、高精細 3D カメラによる鮮明な画像のもと、多関節のアームにより病変に直観的、かつ全く手振れることなくアプローチできることだと思います。この特性は神経温存に非常に寄与するものと思われます。

当院には、2017 年に、呉西地区で初の導入となりました。そして、2018 年 4 月になり、ようやく消化器外科領域（食道、胃、直腸）、肺、縦隔の癌、および弁膜症も対象疾患として追加保険収載され、当院では 2018 年 9 月から胃癌、2019 年 11 月か

らは直腸癌に対して導入を開始しております。

消化器外科領域では適応となる患者さんが多いためか、あたかも安易な導入を規制するかのようになり、厳しい基準が設けられているため、ダヴィンチを持っていても消化器外科領域の手術ができない施設もあります。胃癌と直腸癌の双方にロボット支援下手術を導入している施設は呉西では当院のみです。

本年度から 5G 通信が本格導入され、これまで手術支援ロボットとして独占状態であったダヴィンチの主要特許の大部分が 2019 年で期限切れになりました。これを受け、世界ではグーグル社、J&J 社など約 30 社、日本でもオリンパス、川崎重工、メディカロイド社など複数の会社が新たな手術支援ロボットの開発を加速させており、本年はロボット手術の大きな転機の年になると思われます。当院でのロボット手術の継続と発展には手術実績が何よりも大切です。先生方におかれましては、本年も変わらぬ診療の連携を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



2019 年度新任医師のご紹介



消化器内科 **早川 希**

2019年4月から市立砺波総合病院で勤務することになりました消化器内科の早川希と申します。開業医の先生方と少しでも地域の医療に貢献できるよう頑張りますのでよろしくお願いいたします。



眼科 **岡山 允彦**

2019年4月から赴任しました岡山と申します。自分が出生した病院で働くことができ光栄です。紹介等に関わることになると思いますが、よろしくお願いいたします。



循環器内科 **鷹取 治**

この度、2019年度から循環器内科に赴任しました。地域医療に貢献できたらと考えています。宜しくお願い申し上げます。



耳鼻咽喉科 **溝上 晴恵**

2019年4月から耳鼻咽喉科に勤務しております溝上晴恵と申します。耳鼻科一般の疾患に対して、内服加療から手術まで、広く対応しています。



小児科 **宮澤 英恵**

金沢大学に所属し、小児免疫・アレルギーを専門としています。地域の子どもの健康を守る一員となれるよう努力したいと思っております。よろしくお願いいたします。



放射線科 **田中理紗子**

共同機器利用では先生方に大変お世話になっております。今後とも、何卒よろしくお願いいたします。



小児科 **竹村 悠太**

医師4年目の竹村悠太と申します。先生方と密に連絡を取りながら患者さんファーストの診察を真摯に行ってまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



麻酔科 **古木 勲**

より良い麻酔管理を通して、患者さんが安心して安全に手術を受け回復できるよう診療にあたっております。



整形外科 **豊岡 加朱**

2019年10月から着任いたしました整形外科の豊岡加朱と申します。地域に貢献できるよう努めます。よろしくお願いいたします。



腎臓内科 **松野 貴弘**

2019年4月から赴任してまいりました松野と申します。至らぬ点多々あるかと思いますが、何卒よろしくお願いいたします。



形成外科 **浅田 佳奈**

整容面、機能面を重視した形成外科の専門的な医療を、患者さんに寄り添いながら提供します。よろしくお願いいたします。



糖尿病・内分泌内科 **加藤健一郎**

糖尿病・内分泌代謝領域を中心に、必要時には他科・多職種と連携の上でご本人・ご家族の状況に応じた診療を目指します。



脳神経外科 **林 智秀**

脳卒中が疑われましたら、当科へのご紹介をよろしくお願いいたします。



集中治療・災害医療部 **谷 昌純**

救急外来とICUを担当しています。ご紹介いただいた患者様を診察する機会も多く、また逆にこちらから情報の照会やフォローをお願いすることも多々あります。その際には、またよろしくお願いいたします。



産婦人科 **高森さやか**

産婦人科領域において地域の皆様にも少しでもお役に立てよう頑張ります。ご紹介等よろしくお願いいたします。



集中治療・災害医療部 **加茂 徹大**

集中治療部所属の加茂徹大と申します。急性期疾患の全身管理を通して地域の医療に貢献して参りたいと思っております。

地域医療連携室から

このたび、広報誌『おあしす連携だより』を創刊いたしました。今後定期的に発行する予定です。地域の医療圏の皆さまとより一層の連携を図ってまいりますので、ご意見、ご要望等がございましたら地域医療連携室までお知らせください。どうぞ、よろしくお願いいたします。

連絡先：地域医療連携室 TEL0763-32-8361 FAX0763-33-1591